

令和二年度 奈良県教育長賞

「子高齢化と納税」

磯城野高等学校 一年 市川 紗葵

日本は、急速に少子高齢化が進んでいる。二〇〇〇年には、六十五歳以上のお年寄りを3.6人で支えていたにも関わらず、二〇五〇年には1.3人で支えることになると予想されている。このまま放置すると、年金や医療費を払うことになる将来の世代に大きな影響が出てしまい、納税に良いイメージを持つことは少なくなってしまうのではないのだろうか。私も少し気になっている。自分が働くようになった時、納税する金額があまりにも上昇していないか心配である。だが私は、今働いている世代が納税したお金で生活していることも忘れてはいけないと思っている。

ニュースでよく、「納税の申告漏れ」という言葉を耳にする。それは、所得が多い人というイメージを私は持っている。なぜ、納税の義務を怠ったのかと怠った本人に聞くと、「忘れていた」とよく言う。私は、所得が多い人ほどお金を自分の所に留めておきたいのではないかと考えた。

納税をして良いことといえば、社会に貢献できるということである。自分が日本中の人を支えている、縁の下の力持ちになっていると思えば誰でも納税することに喜びと誇りを持つのではないだろうか。またその納めた税金が何にどのように使われているのかを知ることが一番大切といっても過言ではない。納税で多くの人を助けていると思えるだろう。

社会保障の制度で納められる税金は、国民の生活を守るためのものだが、納税はそれだけではない。水道、ガス、電気などのライフラインや公共事業など生活にはかかせないインフラにも役立っており、その他にも様々ある。目に見えないエネルギーの流れのようなものなのだ。

私はこの作文を書き、税について調べたことで正しい知識を得られたように思った。納税に対して考え方が変わり、よかった。税に関して公表されている情報を今後はなるべく読もうと思った。自分が納税するときは、税の仕組みを知り、大人であることの自覚を持てればと思う。自分の納めた税金が何に使われているかを考えれば、嬉しい気持ちになるだろう。私はそう考える。また、税について自分自身の考えを持つ人が増えれば、さらに良いだろう。